

平成 26 年 2 月 3 日

「日本版スチュワードシップ・コードに関する有識者検討会」事務局 御中

「責任ある機関投資家」の諸原則（案）《日本版スチュワードシップ・コード》
に関するCGネットの意見

特定非営利活動法人

日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク

理事長 牛島 信

我々、特定非営利活動法人日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク（以下CGネット）は、企業統治（コーポレート・ガバナンス：日本企業の健全なる形態を構成するためのシステム）に関心を持つ民間人（企業人・学識経験者など）によって構成され、企業統治に関する啓発・情報発信、調査・研究を行うことで、日本企業の健全なる育成（持続的成長）に貢献するとともに、経済の活性化に寄与することを目的としている。

その立場から、今般の貴検討会の《日本版スチュワードシップ・コード》の制定の試みに賛成する。ここで示された「投資と対話を通じて持続的成長を促す」ことは低成長を余儀なくされている我が国の競争力を再び向上させる上で極めて重要である。「機関投資家の責任」の諸原則を明らかにすることを通じて、議決権の行使を求めるにとどまらず、より積極的な投資家と企業との対話を促すことは時宜にかなった提言である。

以下、CGネットとして、主としてコーポレート・ガバナンスに関連する事項に関して意見を述べることにしたい。

- 1) 「プリンシプルベース・アプローチ」に基本的に賛成である。もともと、現状の日本の機関投資家の『スチュワードシップ責任』の機能状況を、将来にわたって一層強化するために、コーポレート・ガバナンスに係わる事項を含め、さらにその基本的な部分について実践的な行動規範（"Best Practice"）を個別の行動基準として列挙することも検討に値するのではないかと考える。我々CGネットもこれに積極的に協力する所存である。
- 2) 貴案（本コードの目的）に明記されているように、「企業側が適切なガバナンス機能を発揮することにより、企業価値の向上を図る責務と、本コードに定める機関投資家の責務とは、いわば『車の両輪』であり、両者が適切に相まって質の高い企業統治が実現され、企業の持続的な成長と顧客・受益者の中長期的な投資リターンの確保が図られていくことが期待される」との趣旨に全面的に賛成である。とくに「エ

ンゲージメント」について、「機関投資家が投資先企業の経営の細部にまで介入することを意図するものでない」としつつも、適切なガバナンス機能の発揮の状況については、これをしっかりと監督（モニター）することの重要性を示している点を高く評価したい。

最後に、CGネットとしてはこの場を借りて、本コードの目的である、企業の質の高い企業統治が実現され、企業の持続的な成長と顧客・受益者の中長期的な投資リターン確保が図られていくために、改めて「日本版コーポレート・ガバナンス・コード」が、関連するステークホルダーの意思を糾合する形で策定されることの重要性を強調したい。それをもって初めてこの「スチュワードシップ・コード」が有効に機能する基盤が形作られるものとする。当方としても、民間を代表する機関として、その検討作業に加わるべく活動を進める所存である。

以上

【本件についてのお問い合わせ先】

特定非営利活動法人日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク

専務理事 富永 誠一

〒105-6112 東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービルディング 12F

Tel : 03-5473-8038 / e-mail : info@cg-net.jp